埋蔵文化財発掘調査概報集 XX™

- 一 令和2年(2020年)度調査分
 - 1. 谷戸ノ田遺跡
 - 2. 八幡神社遺跡
- 一 令和3年(2021年)度調査分
 - 1. 清雲寺遺跡
 - 2. 田戸遺跡
 - 3. 薬王寺遺跡
 - 4. 長浜ノ上遺跡

令和5年(2023年)3月31日

横須賀市教育委員会

巻頭カラー図版 I

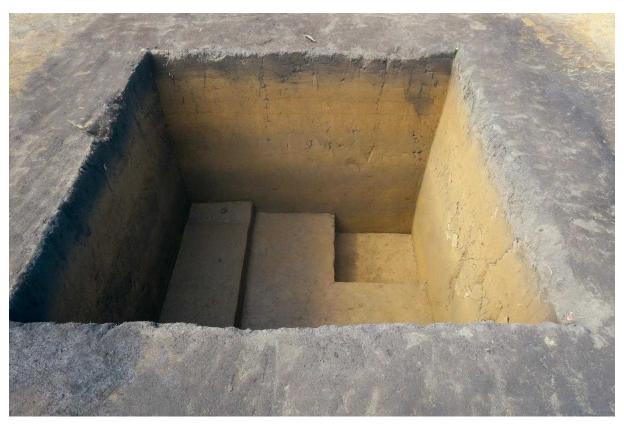


1. 長浜ノ上遺跡 調査区全景(北側から 前方は相模湾、伊豆大島と伊豆半島の先端部が見える)

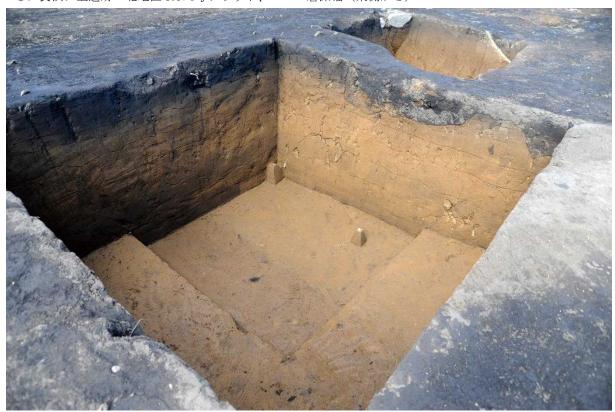


2. 長浜ノ上遺跡 調査区全景 (東側から 左側が北地区、左側が南地区)

巻頭カラー図版 Ⅱ



1. 長浜ノ上遺跡 北地区 18N5 Jグリッド、ローム層深堀(東側から)



2. 長浜ノ上遺跡 南地区区 19N 1 h グリッド、ローム層深堀石器出土状況

例 言

- 1. 本概報集は令和2年度(2020年度)及び令和3年度(2021年度)に横須賀市内で行われた埋蔵文化財に関する 発掘調査の概要を収録したものである。また、県教育委員会が行政資料整備のため行った試掘・確認調査及び 国・神奈川県事業に起因する発掘調査等については、本報告には掲載していない。なお、本報告でいう発掘調 査とは文化財保護法第92条及び第99条等に基づく本発掘調査、行政資料整備のための試掘・確認調査、発掘 を伴う詳細分布調査等を含めたものである。
- 2. 本概報集は調査の概要を掲載したものであり、整理作業途上にあるものも含まれるので、調査主体者の責に おける本報告の発表により内容が改められることもある。なお、小規模な本格調査で本報告をもって最終報告 とする場合は、その旨文末に明記した。また、小規模な試掘確認調査については基本的に本報告をもって最終 報告とする。
- 3. 本報告の執筆・編集は中三川昇・礒口健太郎が担当し、川本真由美・青木微笑・野内秀明の協力を得た。 なお、長浜ノ上遺跡のテフラ柱状図については神奈川災害考古学研究所の上本進二氏より玉稿を賜った。
- 4. 本文中、下記については統一した。
- (1) 各項目における遺跡名の末尾に ()を付して記したのは、『神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳』における横須賀市内の遺跡番号である。
- (2) 遺跡名の下に所在地・調査期間・調査主体者・調査担当者・調査原因を箇条書きでまとめた。 なお、調査面積は発掘面積であり、調査対象面積は()内に記した。調査原因のうち試掘・確認調査 については()内に計画されている開発などの種類を記した。
- (3) 図番号は遺跡ごとに設置したが、「第1図 遺跡位置図」は基本的に横 須賀市発行の『横須賀市域図』を使用し、真北を上に示した。縮尺は一 部を除き2万分の1である。また、合わせて示した「三浦半島全図」の 縮尺は約50万分の1である(右図参照)。その他の図については、方位 及び縮尺をそれぞれの図中に示した。
- 鎌倉市 横浜市 東京湾 東京湾 横浜市 横須賀市 横須賀市 横須賀市 東京湾 (外湾)

5. 整理作業参加者

岩楯英子·倉部裕子

- 6. 抄録は巻末に一括して掲載した。
- 7. 教育委員会事務局の埋蔵文化財調査体制

(令和2年度)

(令和3年度)

教 育 長 新倉 聡

教育総務部長 志村恭一(~6月30日)

佐々木暢行(7月1日~)

生涯学習課長 柳井栄美(~6月31日)

髙槗直人(7月1日~)

文化財担当主査 北原一郎

主 任 川本真由美

担 当 礒口健太郎

再任用職員 野内秀明・中三川昇

会計年度任用職員 松井順子

教 育 長 新倉 聡 教育総務部長 佐々木暢行

生涯学習課長 髙槗直人

文化財担当主査 新倉伸夫

主 任 川本真由美

担 当 礒口健太郎

再任用職員 亀井泰治・野内秀明・中三川昇

会計年度任用職員 松井順子

目 次

巻頭カラー図版

例言

目次

I	令和2年度(2020年度)における埋蔵文化財関連事業等の概要	
	1. 令和2年度における埋蔵文化財発掘調査と事務概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· · 1
	2. 令和2年度における埋蔵文化財関連通知・届出一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	3. 令和2年度に刊行された本市所在遺跡に係る埋蔵文化財関連図書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 3
П	令和2年度(2020年度)における埋蔵文化財発掘調査の概要	
	1. 谷戸ノ田遺跡 (No.149) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4
	2. 八幡神社遺跡(No.248)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 8
Ш	[令和3年度(2021年度)における埋蔵文化財関連事業等の概要	
	1. 令和3年度における埋蔵文化財発掘調査と事務概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 12
	2. 令和3年度における埋蔵文化財関連通知・届出一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
ΙV	′令和3年度(2021年度)における埋蔵文化財発掘調査の概要	
	1. 清雲寺遺跡(No.348)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••14
	2. 田戸遺跡 (No.36) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	••18
	3. 薬王寺遺跡 (No.85) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	••22
	4. 長浜ノ上遺跡 (No.471) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••27
抄	· 録······	••43

Ⅲ. 令和3年度における埋蔵文化財発掘調査と事務概要

平成 31 年度の文化財保護法第 92 条第 1 項に基づき行われた発掘調査は 0 件、文化財保護法第 99 条第 1 項に基づき横須賀市教育委員会が実施した発掘調査は 6 件で、いずれも確認調査である。このほか、国史跡「東京湾要塞跡 猿島砲台跡・千代ケ崎砲台跡」の史跡整備等のための確認調査を行っている。

なお、文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく土木工事等の届出は 51 件、同法第 94 条に基づく土木工事の通知は 7 件、同法第 96 条第 1 項に基づく届け出及び同法第 97 条第 1 項に基づく通知等は 0 件である。

- 1. 令和3年度における埋蔵文化財関連通知・届出一覧
- (1) 文化財保護法第92条に基づく発掘調査の届出: 0件

(2) 文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出:51件

(2)	又化財保護	法弟 93 余に基	づく土木工事の届出:51	1午			
	届出日	所在地	遺跡名	保護措置	届出者	工事の目的	開発面積
1	R3.4.6	久比里2	江戸坂貝塚(7)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	0.844 m²
2	R3.4.8	久里浜2	八幡神社遺跡(248)	工事立会	東ガス(株)	ガス工事	4.16 m²
3	R3.3.16	大矢部5	清雲寺跡(348)	試掘調査	(株)アイリス	個人住宅	414.99 m²
4	R3.4.9	須軽谷	中ノ原南遺跡(169)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	1.40 m^2
5	R3.4.15	大矢部5	清雲寺跡(348)	工事立会	東京ガス	ガス工事	2.25 m^2
6	R2.12.25	秋谷	久留和遺跡(308)	工事立会	個人	個人住宅	216.52 m²
7	R3.4.22	大津町5	大津陣屋跡(114)	工事立会	個人	個人住宅	107.99 m²
8	R3.4.26	久里浜6	八幡神社遺跡(248)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	0.50 m²
9	R3.4.9	田戸台	田戸遺跡(36)	工事立会	かつ七総合管理 (株)	宅地造成	8929.20 m²
10	R3.5.24	大津町3	大津陣屋跡(114)	工事立会	かつ七興産(株)	個人住宅	47.38 m²
11	R3.6.1	富士見町2	No.401 遺跡(401)	慎重工事	東電PG(株)	電気工事	5.04 m²
12	R3.6.1	林3	狐坂遺跡(166)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	1.40 m²
13	R3.6.11	久里浜8	伝福寺遺跡(29)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	1.36 m²
14	R3.6.11	久里浜8	伝福寺遺跡(29)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	1.11 m²
15	R3.6.28	衣笠町3	大明寺遺跡(290)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	3.60 m²
16	R3.7.15	三春町	No.450 遺跡(450)	工事立会	(有)パスタイム	集合住宅	62.58 m²
17	R3.7.29	小矢部3	米の台遺跡(52)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	2.40 m ²
18	R3.8.2	鴨居1	中台貝塚(336)	工事立会	(株)建新	個人住宅	52.99 m²
19	R3.8.2	鴨居1	中台貝塚(336)	工事立会	(株)建新	個人住宅	51.75 m²
20	R3.8.13	長沢2	長岡東遺跡(146)	慎重工事	東電 PG(株)	電気工事	1.26 m²
21	R3.8.18	林3	狐坂遺跡(166)	工事立会	東電 PG (株)	電気工事	1.40 m²
22	R3.8.20	大矢部1	薬王寺遺跡(85)	試掘調査	大矢部町内会	町内会館	152.24 m^2
23	R3.8.23	衣笠町	衣笠城跡(89)	工事立会	個人	個人住宅	71.00 m²
24	R3.9.1	久比里	江戸坂貝塚(7)	工事立会	個人	個人住宅	95.32 m²
25	R3.9.3	吉井	おはやし遺跡(209)	工事立会	(株)NTTドコモ	携帯基地局	5.27 m²
26	R3.9.17	深田台	深田台遺跡(275)	工事立会	個人	集合住宅	57.79 m²
27	R3.9.22	公郷町3	宗元寺窯跡(176)	工事立会	個人	個人住宅	174.47 m²
28	R3.9.30	大矢部 1	薬王寺遺跡(85)	工事立会	個人	個人住宅	39.74 m²
29	R3.10.1	西浦賀 6-10	平根山台場跡(259)	工事立会	和興開発(株)	農業関係事業	1000 m²
30	R3.10.26	長井3	内原遺跡(60)	工事立会	(株)ニッケンホーム	個人住宅	144.08 m²
31	R.3.11.8	西浦賀5	愛宕山遺跡(408)	工事立会	東電 PG(株)	電気工事	2.88 m²
32	R3.11.11	公郷町3	宗元寺窯跡(176)	工事立会	(株)ドリームプラン ニング	個人住宅	87.28 m²
33	R3.12.1	大矢部4	大矢部城跡(93)	工事立会	東電 PG(株)	電気工事	672 m²
34	R3.12.21	須軽谷	中ノ原南遺跡(169)	工事立会	東電 PG(株)	電気工事	2.25 m²
35	R3.12.21	深田台	深田台遺跡(275)	工事立会	個人	個人住宅	255.59 m²

37	R3.12.28	公郷町3	宗元寺窯跡(248)	工事立会	個人	個人住宅	100.08 m ²
38	R3.12.28	深田台	深田貝塚(38)	工事立会	(株)栄都	個人住宅	142.65 m²
39	R3.12.28	三春町2	No.452 遺跡(452)	工事立会	個人	個人住宅	127.35 m²
40	R4.1.4	小矢部1	小矢部城跡(120)	工事立会	個人	個人住宅	182.60 m²
41	R4.1.26	長井6	北条の上遺跡(182)	工事立会	(株)プレザントライ フ	宅地造成	204.45 m²
42	R4.2.1	西浦賀 5	愛宕山遺跡(408)	工事立会	東京ガス(株)	ガス工事	9.45 m²
43	R4.2.2	大津町3	大津陣屋跡(114)	工事立会	東京ガス(株)	ガス工事	315.62 m²
44	R4.2.8	長沢2	長岡東遺跡(146)	工事立会	かつ七興産(株)	個人住宅	107.28 m²
45	R4. 2. 8	田戸台	田戸遺跡 (36)	工事立会	東京ガス(株)	ガス工事	102. 75 m²
46	R4. 2. 21	衣笠栄町3	大明寺遺跡 (290)	工事立会	住宅情報館(株)	宅地造成	249. 59 m²
47	R4. 2. 21	久比里2	江戸坂貝塚(7)	工事立会	(株) 健新	個人住宅	54. 03 m²
48	R4. 3. 10	長井6	北条の上遺跡(182)	慎重工事	東電 PG(株)	電気工事	0. 25 m²
49	R4. 3. 28	衣笠栄町3	大明寺遺跡 (290)	工事立会	三浦不動産	個人住宅	19. 87 m²
50	R4. 3. 30	長井5	内原遺跡(60)	工事立会	個人	個人住宅	54. 79 m²
51	R4. 3. 30	津久井1	大町谷北遺跡(130)	工事立会	東電PG(株)	電気工事	1. 4 m²

(3) 文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知:7件

	通知日	所在地	遺跡名	保護措置	通知者	土木工事の目的	開発面積
1	R3.10.7	小矢部1	蛭畑遺跡(51)	慎重工事	神奈川県	急傾斜工事	363 m²
2	R3.12.10	長井 4-3970-12	長浜ノ上遺跡(471)	本調査	横須賀市	公園整備	2500 m²
3	R3.12.22	鴨居 3-1091	たたら浜洞穴	工事立会	神奈川県	急傾斜工事	462.8 m²
4	R3.12.23	久比里 2-399-2	東久比里遺跡(214)	工事立会	関東財務局	ボーリング調査	152.36 m²
5	R4.3.25	長井6-23-3	北条の上遺跡(182)	慎重工事	東日本電信電話	電話工事	0.5 m²
6	R4.3.1	鴨居 1-129 ほか	中台貝塚(336)	試掘調査	神奈川県	急傾斜工事	1153 m²
7	R4.3.28	走水 1-10-20	小原第3遺跡、小原 台堡塁後	その他	南関東防衛局	ボーリング調査	1000 m²

(4) 文化財保護法第96条に基づく遺跡発見の届出:0件

(5) 文化財保護法第97条に基づく遺跡発見の通知:0件

(6) 文化財保護法第99条に基づき地方公共団体が実施する発掘調査(試掘・確認調査、本市分のみ):3件

	所在地	遺跡名	調査原因	工事主体者	調査期間/面積	調査結果/保護措置
1	大矢部5	清雲寺遺跡(348)	宅地造成	(株)アイリス	R3.4.6/12 m²	遺構・遺物なし/工事立会
2	田戸台	田戸遺跡(36)	宅地造成	かつ七総合管理 (株)	R3.05.10~5.15/28 m²	遺構・遺物なし/工事立会
3	大矢部1	薬王寺遺跡(85)	町内会館	大矢部町内会	R3.8.5/8 m ²	遺構・遺物あり/工事立会

(7) 文化財保護法第99条に基づき地方公共団体が実施する本発掘調査:1件

	所在地	遺跡名	調査原因	工事主体者	調査期間/面積	調査結果
1	長井4	長浜ノ上遺跡(471)	公園建設	横須賀市	R4.1.5~3.7/2,394.35 m ²	遺構・遺物あり

3. 令和3年度に刊行された本市所在遺跡に係る埋蔵文化財関連図書

令和3年度の本市所在遺跡の埋蔵文化財関連図書はなし。

Ⅳ. 令和3年度(2021年度)における埋蔵文化財発掘調査の概要

1. 清雲寺遺跡(No.348)

所 在 地 横須賀市大矢部 5 - 9-1

調 査 期 間 令和 3 年 (2021 年) 4 月 6 日

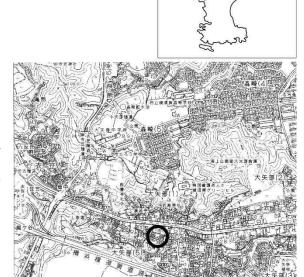
調 査 面 積 16 m²

調査主体者 横須賀市教育委員会 調査担当者 礒口健太郎・中三川昇

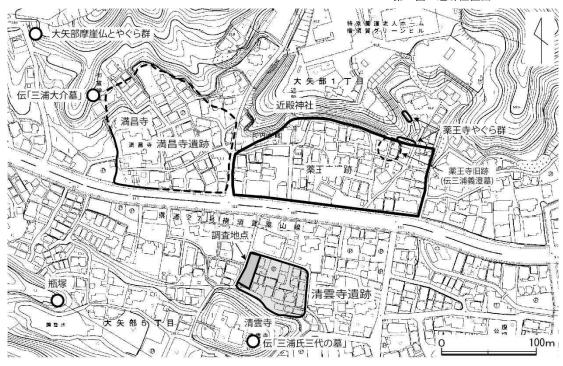
調査原因 宅地造成

(1)遺跡の概要

清雲寺遺跡は南側に隣接する小丘陵上にある臨済宗円 覚寺派大冨士山円通閣清雲寺の旧地で、三浦半島のほぼ 中央部に位置する半島最高峰の大楠山(標高 242m)北東部 から東京湾外湾の久里浜港に注ぐ平作川支流の矢部川に より形成された沖積低地の奥部、横浜横須賀道路衣笠イ ンター出口から直線距離で東南東方に 345mほどの場所に 位置している。周辺の主な遺跡としては、西北西方向の 丘陵部に坂ノ台経塚・大善寺等を含む衣笠城跡があり、 清雲寺遺跡とは矢部川を挟んだ北側に満昌寺遺跡・薬王 寺跡・薬王寺やぐら群ほかの中世遺跡が多数みられる地



第1図 遺跡位置図



第2図 清雲寺遺跡と周辺の中世遺跡(4000))

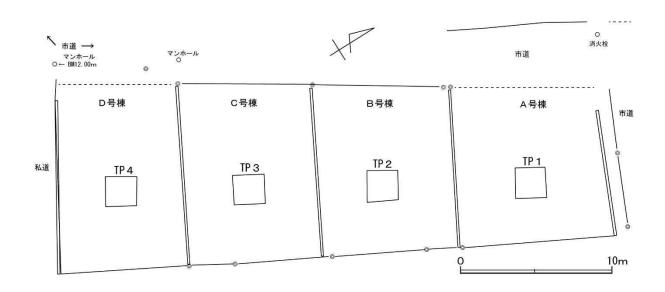
域である。清雲寺は三浦氏三代目と云われる三浦義継が父三浦為継の菩提を供養するため長治元年(1104 年)に 建立したと伝わる寺院で、国指定重文「木造観音菩薩」・県指定重文「木造毘沙門天立像」・横須賀市指定重文 「石造板碑文永八年在銘板碑」・「三浦為通・為継・為義三代の墓(五輪塔)」等、三浦氏所縁の仏像や石塔類を多 く伝えるが、木造毘沙門天立像や三浦為継墓と伝わる五輪塔以外は、三浦為通開基と伝わる円通寺(廃寺)から昭 和14年に移されたものである。元は現在地北側の低地にあったが元禄5年(1692年)、丘陵上の現在地に移転し ている。「清雲寺遺跡」はその旧地と想定される部分である。

(2)調査の方法と調査結果

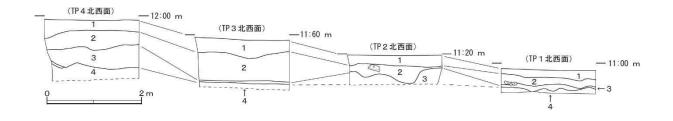
今回の調査は4区画の宅地造成及び住宅建築工事に伴う確認調査のため、第3図に示したとおり2m四方の試掘坑を各区画に1か所、合計4か所設定して行った。調査結果は以下の通りである。

試掘坑 TP1~TP4(第3図~4図、写真1~12)

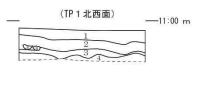
試掘坑は北側区画より試掘坑 $TP1 \sim TP5$ と命名した。各試掘坑とも基本的な土層堆積は同じである。第1層は直近の整地層、第2層と第3層は昭和時代以降の盛土層である。第4層は暗青灰色の粘土層で旧水田の層である。第4層はは湧水が著しく以下の掘下げは断念した。いずれの試掘坑からも遺構・遺物は確認されなかった。

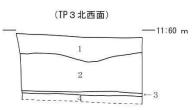


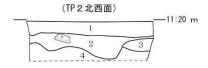
第3図 試掘坑配置図(1/250)

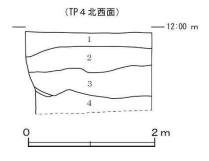


第4図 試掘坑土層断面模式図(1/80)









第1層 近の整地層

第2層 色シルト層。こぶし大の泥岩礫 を多量に含む。粘性あり、しま りなし。昭和期の造成十層。

りなし。昭和期の造成土層。 第3層 オリーブシルト層。1~2 cmの 泥岩粒、木炭を含む。昭和期の 造成土層。

第4層 青灰色粘土層。しまりあり、粘 性に富む。近代以前の水田層。

第5図 試掘坑土層断面図(1/60)



写真1 調査地点全景(南側から)



写真2 試掘坑TP1設定状況



写真3 調査状況(南側から)



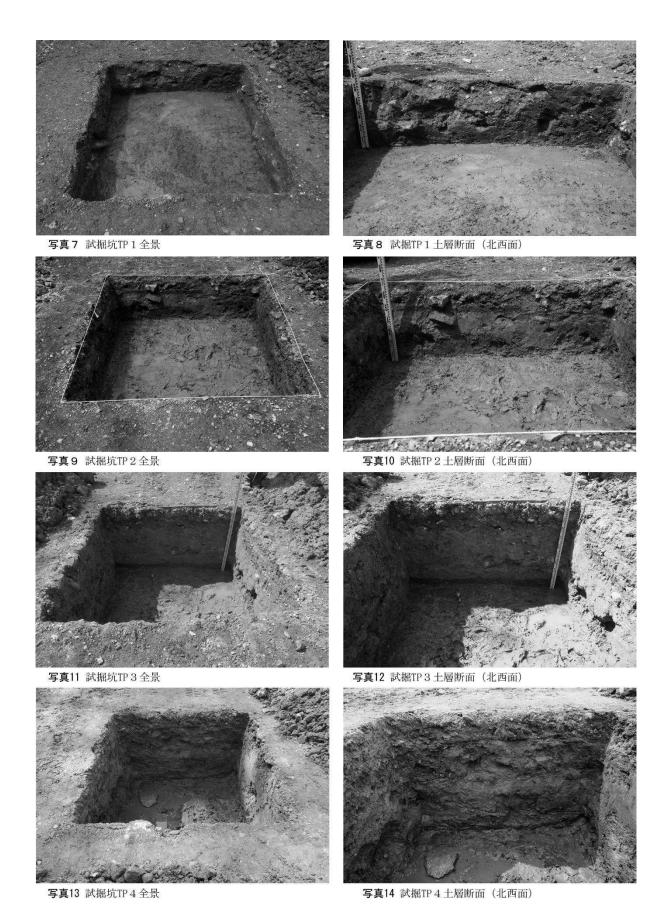
写真4 調査地状況(北側から)



写真 5 調查地点北側境界付近現況



写真 6 調查地点南側境界付近現況



2. 田戸遺跡 (No.36)

所 在 地 横須賀市田戸台 4-1 ほか

調 査 期 間 令和3年(2021年)5月10日~5月15日

調 査 面 積 28 m²

調査主体者 横須賀市教育委員会

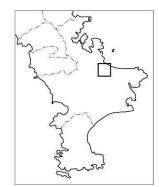
調査担当者 礒口健太郎・野内秀明

調査原因 宅地造成

(1)遺跡の概要

縄文時代早期中葉の「田戸下層式」、「田戸上層式」の標式遺跡として著名な田戸遺跡は、東京湾内湾を北東に臨む標高35~44mほどの台地上に位置している。田戸台と呼ばれるこの台地の北東側は急峻な崖を形成し、その前面には海を埋め立てて造られた土地に市街地が広がっている。遺跡周辺の台地は南東から北西へ傾斜しており、南東端の標高37mほどのところに横須賀鎮守府長官官舎(現海上自衛隊田戸台分庁舎)があり、北東端の標高20mほどのところに聖徳寺がある。鎮守府長官官舎と聖徳寺との間に横浜地方裁判所横須賀支部があり、遺跡の中心はこの裁判所建物の周辺であったと考えられている。

田戸遺跡は大正11年(1922年)に赤星直忠により発見され



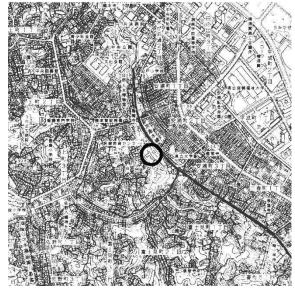


図1 遺跡位置図

た。当時、遺跡周辺は陸軍の横須賀重砲兵連隊の演習砲台であった。その年に横須賀重砲兵連隊に一年志願兵として入隊していた赤星は、訓練のため演習砲台に出かけ、そこで遺跡を発見した。発見当初は「聖徳寺裏山アイヌ式遺跡」と呼称したようである。大正12年(1923年)に赤星は陸軍を除隊し豊島小学校の代用教員に戻るが、その後も遺跡への関心は薄れることはなく、大正13年(1924年)4月に小発掘を行っている。さらに昭和5年(1930年)以降は山内清男とともに複数回の発掘調査を実施した。それらの調査成果により、田戸遺跡出土の土器は関東地方の縄文時代早期中葉の土器型式の標式資料に位置づけられ、「田戸下層式」、「田戸上層式」の各土器型式が設定されることとなった。標式遺跡として極めて重要な田戸遺跡であるが、調査当時は三浦半島一帯が要塞地帯であったために写真撮影や地形の記録が制限されていたことに加えて、戦前戦後を通じて大規模な土地の改変が行われたため、赤星と山内による調査範囲の正確な位置は、現在は分からなくなっている。遺跡は戦後の裁判所建設に伴い消滅したとも伝わるが、建設当時の記録などは残されておらず詳細は不明である。

平成5年(1993年)には裁判所西側の道路対面の箇所で海上自衛隊宿舎建設に伴う発掘調査が行われた。この調査では、裁判所との間の道路部分に埋没谷があることを確認したほか、7世紀後葉の竪穴住居址などが検出された。また、近現代の遺構として関東大震災でできたと思われる砂脈や、震災直後に復興のために盛土をした造成土層が確認された。この造成土は近隣から持ち込まれたものと考えられ、主に縄文時代中期から後期前半にかけての遺物が多く検出された。

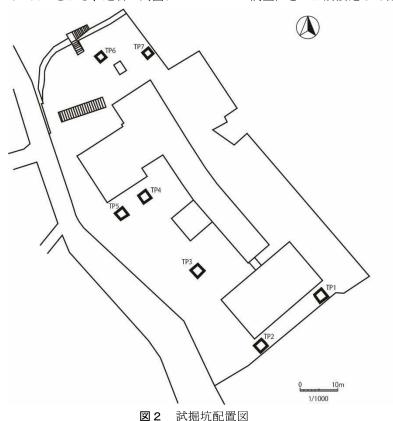
横浜地方裁判所横須賀支部は平成24年(2012年)に移転し、旧裁判所建物の解体と、その後の宅地造成が行われることとなった。遺跡は既に大きく改変を受けていることが予想されたが、標式遺跡としての重要性に鑑みて、遺跡の遺存状態確認のための調査を行った。

(2)調査の方法と調査結果

調査時点ではまだ旧裁判所建物が残っていたことから、建物の周囲に2m×2mの調査区を7か所設定して行った。

TP1、TP2ともアスファルトと現代の造成土の下から、関東大震災後の復興土層を検出した。褐色もしくは暗褐色土に明黄褐色砂泥をブロック状に含みよくしまっている。最下層は第四紀更新統の大津層で、TP1はオリーブ黄色、TP2は青灰色を呈す。この色調の違いは、TP2は西側道路下の埋没谷に近いため、地下水の影響を受けて土壌が還元されたためと考えられる。貝化石の小片を含み、また、震災により生じたと思われる砂脈が確認された。

TP3は地表面のアスファルトを撤去したところ、旧裁判所建物に関連すると考えられるコンクリート敷とU字溝を検出した。コンクリート敷の表面は平滑に仕上げられており、下には割栗



石が敷かれている。割栗石とU字溝の下は大津層である。

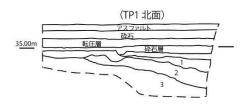
TP4はアスファルト直下からほぼ全面にわたりコンクリート敷を確認した。試掘抗南辺に沿ってコンクリート敷が切られており、配管敷設跡とみられる溝を確認した。溝の下部に黒色土を確認したが、掘削範囲が著しく狭く掘り下げるのを断念した。

TP5は、現地表面のアスファルトと路盤層および転圧層の下から、2期にわたるコンクリート舗装面を確認した。これらの舗装の正確な時期は不明だが、上部コンクリート舗装は旧裁判所建物建設時、下部コンクリート舗装は震災復興土層(第1層、第2層)の直上であることから震災後間もない時期のものと考えられる。

第3層と第4層は演習砲台期の造成土と考えられる。第5層は自然堆積の黒色土で須恵器と土師器の小片を含む。第6層はローム漸移層である。5層と6層は西に傾斜していて、これは平成5年の調査で確認した埋没谷の東側斜面と考えられる。

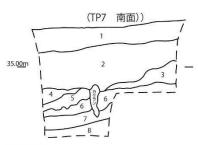
TP 5 からは石の角柱 2 点を検出した。どちらも黄色味が強く粒子が粗い軟質の凝灰岩製で、断面形は短辺約 20 cm、長辺約 30 cmの長方形である。高さは約 60 cmを測るが、上端は加工痕がなく不整形であることから、上部は欠損したと考えられる。石材表面の加工は、長辺面は粗く鑿痕を残すのに対して、短辺は鑿痕を残しながらも平滑に整形している。どちらも第 3 層の黒色土まで掘り込み、角柱を据えた後根固め石を配置し、掘り方に黒色土と褐色土を互層に入れて固めている。同様の掘り方は調査区西側でも確認された。角柱の距離は芯-芯で約 180 cmである。この角柱は、上に震災復興土が乗っていることから、震災前の演習砲台期のものであると考えられる。角柱の上部構造は不明であるが、その位置などから演習砲台の敷地を区画する柵や塀の一部であり、震災時に破損したかもしくは直後に破棄され、根本部分が地中に残されたものと考えられる。

TP6、TP7ともに現代の造成土の下に震災復興土層があり、最下層は大津層である。遺構や遺物は確認されなかった。



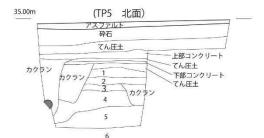
(土層説明)

- 第 1 層 灰オリーブ (7.5Y7/1) 細砂泥層。よくしまってい
- 成オリーノ (7.51771) 細砂泥層。よくしょうといる。 粘性は弱い。 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 細砂泥層。しまり強い。 粘性は弱い。灰オリーブや明黄褐色砂泥をプロック状に大量に含む。角礫、レンガ片を少量 第2層
- 含む。 第3層 オリーブ黄(5Y6/3)砂泥層。しまり強い。粘性は 弱い。大津層。



(土層説明)

- 第1層 表土層。
- 明黄褐色(7.5YR5/6)土層。灰オリーブ土を含む。 第2層
- しまりなし。粘性あり。 明褐色(7.5YR5/6)土層。灰オリーブを含む。しま 第3層 りなし。粘性あり。隙間が多い。
- 第4層 にぶい黄褐色(10YR5/3)土層。灰黄色砂泥がブ ロック状に混ざる。
- 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂泥層。灰黄、明黄褐色砂泥 第6層
- をブロック状に含む。しまりあり。粘性あり。 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂泥層。しまりあり。粘性やや 第7層 あり。炭化物を含む。
- 灰黄色(2.5Y6/2)砂泥層。しまりあり。粘性あり。 第8層 大津層。



(土層説明)

- 第1層 灰色 (5Y5/1) 土層。しまり強い。粘性弱い。
- 円礫含む。 褐色(7.5YR4/4)土層。しまり強い。粘性弱い。 第2層 円礫、瓦片を含む。
- 第3層 明黄褐色 (10YR7/5) 粘土層。しまりあり。粘 性に富む。
- 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層。しまりあり。粘性 第4層
- に乏しい。5mm程度のチャート円礫を少量 含む。スコリアを少量含む。 黒色(10YR1.7/1) 土層。粘性に富む。しまり あり。スコリア、パミスを少量含む。土師器、 須恵器の小片を検出。 第5層
- 第6層 鈍い黄褐色 (10YR7/3) 土層。しまり強い。粘 性に富む。スコリア、パミスを少量含む。

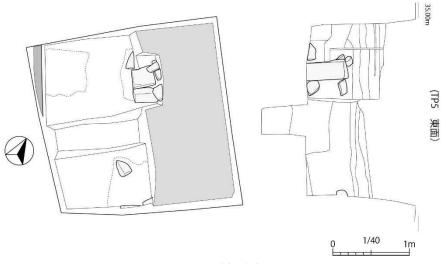


図3 試掘坑実測図

遺跡が大きな改変を受けているであろうことは調査前から予想されていたが、今回の調査では遺構および遺物 は確認できず遺跡は壊滅状態であることを確認した。また、近代の演習砲台の存在を明確に示す遺構も確認され なかった。一部では田戸遺跡は裁判所の建設に伴い消滅したともいわれており、今回の調査地点については、そ れを裏付ける結果となった。

令和3年10月12日と21日に解体工事の立会を実施した。近代のコンクリート塊、レンガブロックを確認したが、縄文時代の遺構・遺物は確認されず、縄文時代の包含層相当層も確認されなかった。

令和4年4月25日に宅地造成に伴う工事立会を実施した。土師器を採集したが、縄文時代の遺構・遺物は確認されなかった。

(文献)

赤星直忠 1970 『穴の考古学』 学生社 横須賀市教育委員会 1994 『田戸遺跡』 横須賀市埋蔵文化財報告 第4集 赤星直忠考古学研究資料デジタルアーカイブ:1巻、p.90-91



写真1 旧裁判所建物北西より



写真2 TP1 北面セクション



写真3 TP2 北東角 震災時砂脈



写真4 TP5 全景 南から

3. 薬王寺遺跡(No.85)

所 在 地 横須賀市大矢部 1-204-1、-3

調 査 期 間 令和3年(2021年)8月5日

調査面積 8㎡

調査主体者 横須賀市教育委員会

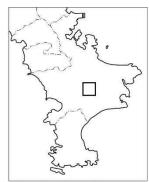
調査担当者 礒口健太郎・中三川昇

調査原因 宅地造成

(1)遺跡の概要

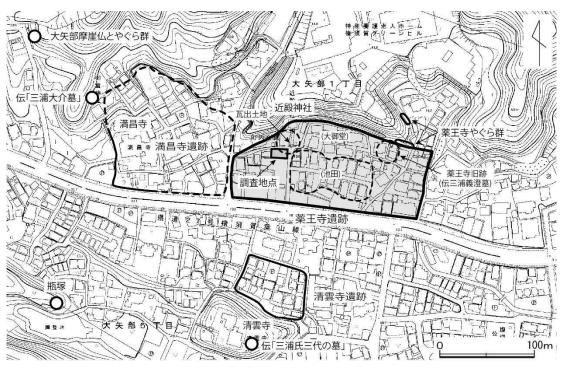
薬王寺遺跡は、三浦半島のほぼ中央部に位置する半島 最高峰の大楠山(標高 242m)北東部から東京湾外湾の久里 浜港に注ぐ平作川支流の矢部川により形成された沖積低 地の奥部、横浜横須賀道路衣笠インターから東南東方向 に直線距離で 325mほどの場所に位置している。周辺の主 な遺跡としては、西北西側の丘陵部に坂ノ台経塚・大善 寺等を含む衣笠城跡があり、遺跡近隣地に満昌寺遺跡・ 薬王寺やぐらなどがあり、薬王寺遺跡とは矢部川を挟ん だ南側には清雲寺遺跡があるなど、三浦氏所縁の中世遺 跡が多数みられる地域である。

薬王寺は、和田義盛が建暦2年(1212年)に父杉本義宗 と叔父三浦義澄の菩提を弔うため建立したと伝わる寺院で、





第1図 遺跡位置図



第2図 清雲寺遺跡と周辺の中世遺跡(1/4000))

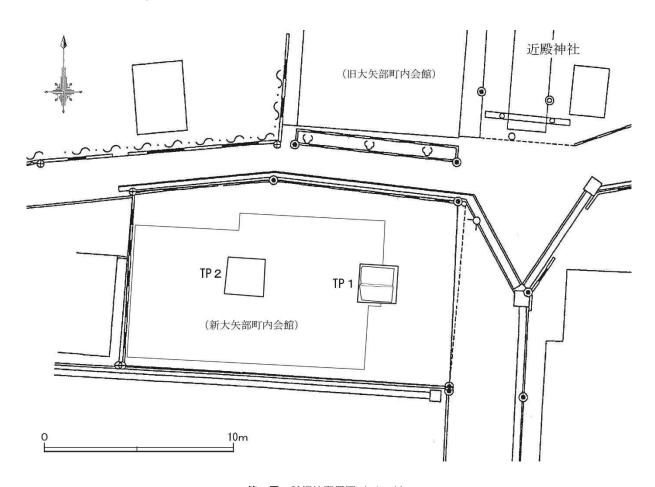
明治9年(1876年)頃に廃寺となり、現在は三浦義澄墓と伝わる石塔が市指定史跡「薬王寺旧跡」の中に残るだけだが、近隣の満昌寺に薬王寺本尊であった薬師如来像や薬王寺にあった元応2年(1320年)銘板碑などが残されている。最後の仏堂は史跡地の南側にあったらしく、山門跡と伝わる場所に馬を繋いだと云われる「駒繋石」がある。西側は「池田」の小字名があり、苑池の存在を匂わせている。その北側には「大御堂」の地名が伝わり、文字通りならここにも仏堂があったと考えられる。「大御堂」の西側には、三浦義澄嫡男の義村を祭神とする「近殿(ちかた)神社」がある。その境内と近辺からは現大阪府の和泉国かその近辺で生産されたと考えられる鎌倉時代前期の側面蓮華文軒丸瓦ほかを含む中世の瓦が出土しており、未発見仏堂の存在が予想されるところである。また、薬王寺旧跡の北側には中世墳墓窟の「薬王寺やぐら」群がある。5基のやぐらが発掘され、中世の土器・陶磁器などと共に軒丸瓦ほかが出土している。

(2)調査の方法と調査結果

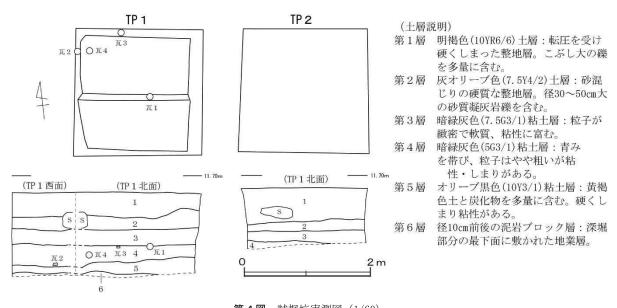
今回の調査は町内会館建築に伴う確認調査で、第3図に示したとおり2m四方の試掘坑を2か所設定して行った。調査結果は以下の通りである。

試掘坑 TP1~TP2(第4図、写真2~3)

第1層~第2層は昭和時代以降の盛土層で、第3層の粘土層は盛土以前の水田の耕作土、第4層も粘土層であるが中世の遺物包含層で瓦片が複数の出土している。第5層は黄褐色土と炭化物を多量に含み硬くしまった粘土層。第6層は径 10 cm前後の泥岩ブロックを敷詰めた地業層で、上面が薬王寺跡の一部に関わる地業面と考えられるが、湧水が著しく十分な確認は出来なかった。なお、TP2は工事による掘削深度以下まで達したため第4層中までの掘削に止めた。



第3図 試掘坑配置図 (1/200))



第4図 試掘坑実測図 (1/60)

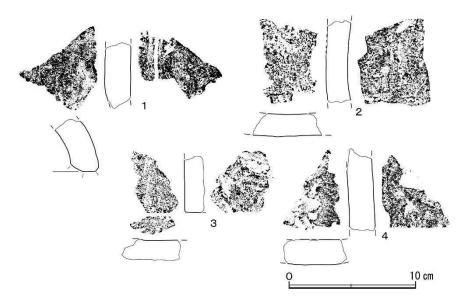
出土遺物(第5図、第1表、写真7)

試掘坑 TP1の第4層下部から上部にかけて4点の瓦片が出土した。第5図1は丸瓦の側縁部片、第5図2~4は平瓦片で3は端部片である。いずれも石英や黒色・灰白色粒を含む胎土で色調は概ね灰色で、焼成は甘くやや軟質である凸面の調整はナデ調整と思われるが判然としない。また器面摩耗のためか凹面に明確な布目痕や糸切痕等は確認できなかった。

今回の調査地点隣接地の近殿神社境内とその周辺からは 現大阪府の和泉国かその近辺で生産されたと考えられる鎌倉時代前期の側面蓮華文軒丸瓦ほかを含む中世瓦が出土していることから、今回出土した瓦片もまた中世期の所産と考えられるが、これらの瓦片は横須賀市域や鎌倉市調査地周辺でこれまで出土している関東在地産と考えられる瓦類の胎土・調整とは明らかに異なる。軟質な焼成で、これまで確認されている良好焼成の側面蓮華文軒丸瓦ほかとは異なるが、これらの瓦も旧和泉国近辺で生産された瓦である可能性が高いかと思われる。

(まとめ)

薬王寺遺跡ではこれまで試掘・立会調査を除く発掘調査は行われていないため、その実態については不明な点ばかりで、わずかに遺跡西北部の近殿神社境内とその周辺から出土した中世瓦の存在が知られるのみであった。それらの瓦には鎌倉時代前期から中頃のものと室町時代頃のものとがある。特に前者の瓦は現大阪府の和泉国又は河内国との国境近辺で焼かれたとされる瓦で、河内守護に任じられた三浦義村・泰村、同じく河内守の三浦光村や和泉守護に念じられた佐原義連・盛連等の関連が窺われる瓦でもあるが、採集されているのは軒先瓦のみで平瓦や丸瓦等は採集されていなかったが、今回出土した瓦片が該当するとすれば、当該地にそれらの瓦を使用した仏堂等が存在した可能性がより高まるものと思われる。また、TP1で確認された泥岩敷きの地業面の存在はその可能性を補強するものである。



第5図 出土遺物実測図(1/3)

第1表 出土遺物観察表

No.	出土位置	種別	法量(単位はcm)、()は推定値・土色記号
1	TP 1	丸瓦	側縁部片 長(6.7)・幅(5.0)・厚(2.0)・重(59.0) 器面摩耗、調整不明 焼成:やや軟質 胎土: 石英、黒色・灰白色粒等の砂粒を含む 色調:凸面=灰オリーブ色
2	TP 1	平瓦	破片 長(7.3)・幅(6.0)・厚1.8・重(77.3) 凹凸面=ナデか 焼成:良好 胎土:石英、黒色・灰
2		干凡	白色粒等の砂粒を含む 色調:器面=灰色(7.5Y5/1~10Y4/1)・胎土=灰色(10Y6/1
2	3 TP1 平瓦		端部破片 長(5.3)・幅(5.2)・厚(1.6)・重(43.7) 凹面=器面剥離、凸面=ナデか 焼成:良好
3			胎士:石英、黒色・灰白色粒等の砂粒を含む 色調:灰白色(10YR6/1)・胎士=白色
4	TD 1	77 E	破片 長(6.4)・幅(6.1)・厚 2.0・重(64.0) 凹面=ナデ・凸面=器面剥離、 焼成:やや軟質 胎
4	4 TP 1	平瓦	土:石英、黒色・灰白色粒等の砂粒を含む 色調:灰色(7.5Y7/1)

(文献)

宍戸信吾ほか 2004 『薬王寺寺やぐら群』かながわ考古学財団発掘調査報告書 176

竹澤嘉範ほか 1990 『神奈川の中世瓦集成図録』横須賀考古学会

竹澤嘉範 1996「横須賀市大矢部近殿神社の掛け瓦」横須賀考古学会年報 31

中三川昇 2008 「薬王寺遺跡」『埋蔵文化財発掘調査概報集 X VI』横須賀市文化財調査報告書第 45 集 横須賀市教育委員会

山崎信二 2000 『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所学報第 59 冊

小林康幸・高橋香 2019 「相模」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 高志書院



写真1 近殿神社



写真3 試掘坑TP1全景 (東側から)



写真5 試掘坑TP2全景 (東側から)



写真2 調査状況



写真4 試掘TP1全景 (南側から)



写真6 試掘TP2西面土層断面

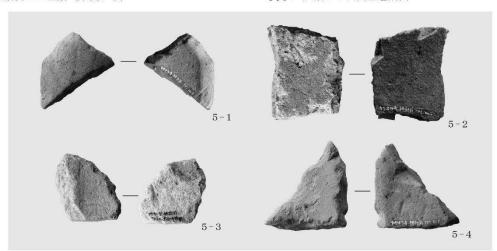


写真7 出土遺物

4. 長浜ノ上遺跡(No.471)

所 在 地 横須賀市長井4-3970-12

調 查 期 間 令和4年(2022年)1月5日~3月7日

調 査 面 積 2,394.35 ㎡

調査主体者 横須賀市教育委員会

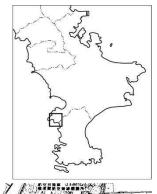
調査担当者 礒口健太郎・中三川昇

調 査 原 因 公園建設

(1)遺跡の概要

遺跡の立地する長井台地は三浦半島西岸中南部に位置し、相模湾に向かって突出する独立丘状の台地である(第1図)。長浜ノ上遺跡はその台地南部の東側に位置している(第2図471)。

遺跡の立地する長井台地上には旧石器時代以降、各時代の遺跡が数多く分布している(第2図)。長浜ノ上遺跡の北側には縄文時代早期の陥し穴や奈良時代の四面庇付き掘立柱建物ほかが発見された長井高原遺跡(第2図468)、西側には旧石器時代の陥し穴群とナイフ形石器ブッロクや細石刃ブロックを複数の文化層と縄文時代早期の礫群などが発見された打木原遺跡(第2図469)、南側には古墳時代前期の集落跡や石棺墓ほかが発見されて佃嵐遺跡があり、台地突端の斜面部に古墳時代後期の長浜横穴群がある。このほかそれらの外周部にも各時代の遺跡が展開しており、市内でも有数の遺跡密集地帯となっている。

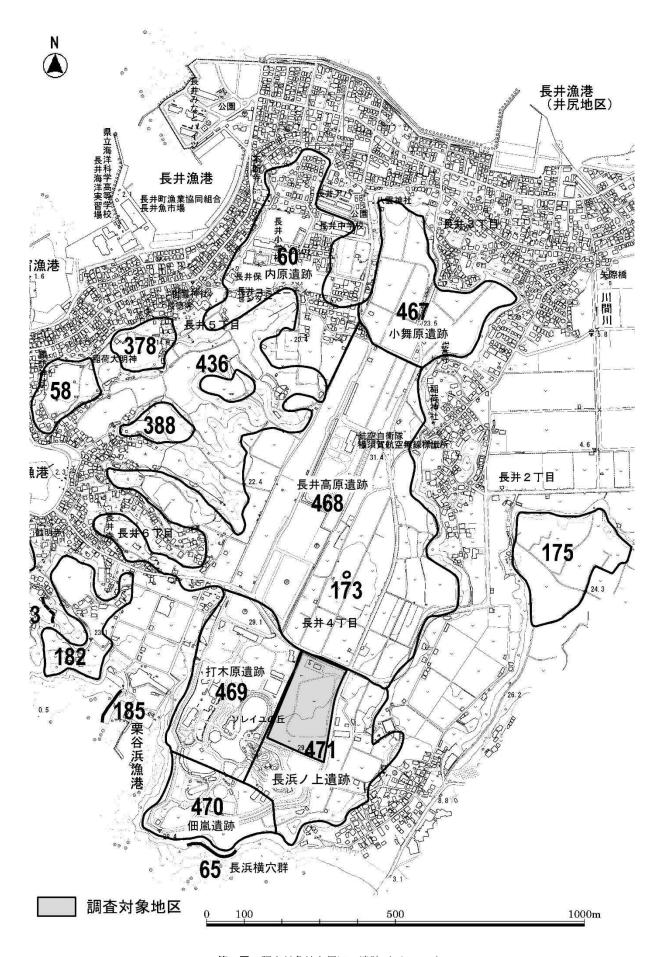




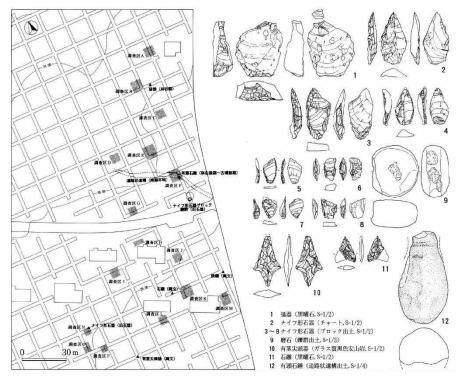
第1図 遺跡位置図

長浜ノ上遺跡の西側部分は1943年(昭和18年)に開始された武山海軍航空隊基地建設工事により標高28~31 mほどまで削平され、戦後は基地の跡地全体が接収され米海軍の住宅地区として利用されたが、1985年(昭和60年)に大半が返還された。その後、横須賀市の長井海の手公園ソレイユの丘が造られ、一部は関東管区警察局の通信施設となった。その施設も廃止され、2021年(令和3年)に跡地が横須賀市に譲与され、長井海の手公園の一部として活用されることになった。

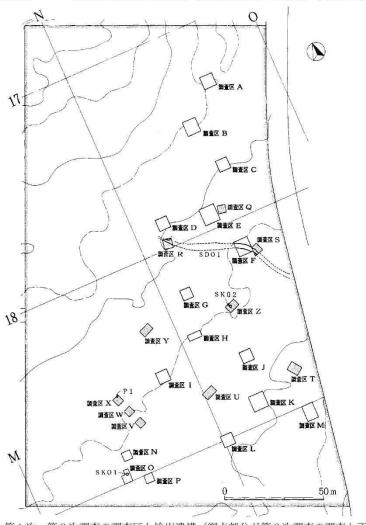
今回の調査対象地である通信施設の跡地では、1987 年度(昭和 62 年度)に跡地利用計画策定のための試掘調査(稲村ほか 1990)が、1998(平成 10)年度には通信施設建設に伴う 2 次にわたる本発掘調査(佐藤 1999)が行われ、全体に密度は薄いが旧石器時代から縄文時代及び古墳時代以降の遺構・遺物の存在が確認されている(第3図)。旧石器時代では複数の文化層が確認されたが、最下層の第1文化層は姶良丹沢軽石(以下 AT とする)を含む層より下層の相模野考古学土層(以下、考古学土層は省略)B4層上部の石器ブロックで、長野県蓼品冷山産と考えられる黒曜石剥片 4 点が出土している。第2文化層は試掘調査時に確認された相模野B1相当層の石器ブロックと礫群で、石材は神奈川県箱根畑宿産及び栃木高原山産の黒曜石が主体的であった。そのほか相模B4層下部やB3・L2層からも石器が出土している。このほか少量の縄文土器や古墳時代以降の土器片が出土し、古墳時代以降の硬化面を伴う道路状の溝状遺構(第3図SD01)も確認されている。



第2図 調査対象地と周辺の遺跡 (1/10,000)

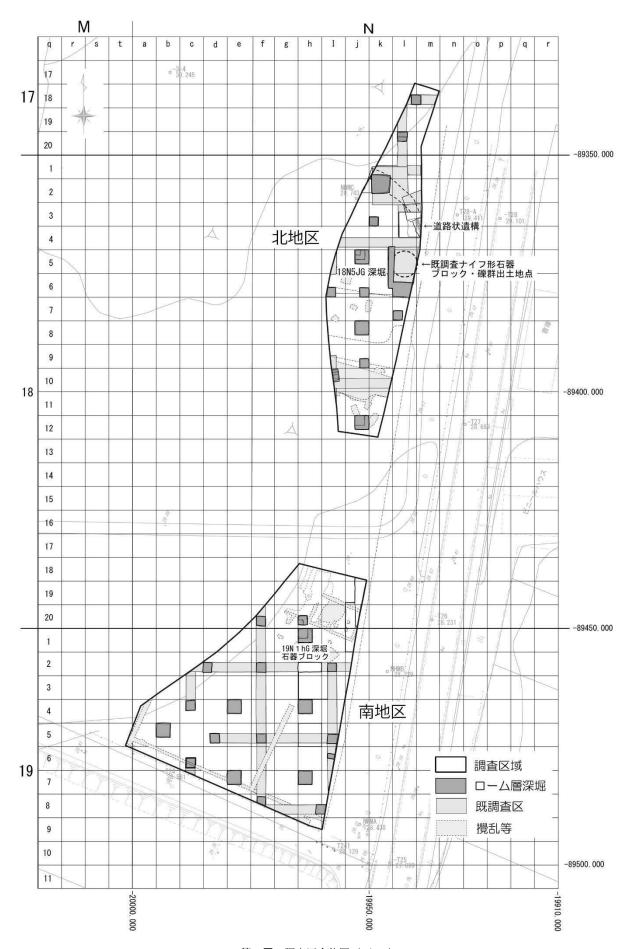


試掘調査トレンチと確認遺構及び出土土器 (網点部分は第1次調査の調査か所)



第1次~第2次調査の調査区と検出遺構 (網点部分が第2次調査の調査か所)

第3図 調査対象地の調査区と検出遺構及び出土遺物の一部(佐藤 1999 より一部改変して掲載)



第4図 調査区全体図 (1/800)

(2)調査の概要

今回の調査は長井海の手公園の増設・拡張部分が対象であったが、工事内容は大半が大規模な掘削を伴わない 駐車場及び芝生広場の建設であったため、水掘削が行われる遊水地建設地を調査区域とした。調査面積は北地区 が856.2 ㎡、南地区が1,538.12 ㎡強で、総面積2,394.35 ㎡である(第4図)。調査区の最深掘削深度は基本的 に工事による掘削深度としたが、遺物の包含状況や層序確認のために一部さらに掘り下げた部分もある。

調査方法は調査区域全域が既に掘削・撹乱されていたことから、基本土層第5層の黒褐色土(残存部分のみ)からローム層上面まで掘削し遺構確認を行い必要な調査を行った。次に試掘調査時の調査グリッドと試掘坑 (稲村ほか1990) などを踏まえ、ローム層中の遺構・遺物調査を目的に基本的に2m四方及び3m四方の深堀を行った (第3図)。なお、調査グリッドは試掘調査時に設定した100m四方の大小グリッドと5m四方の小グリッドを踏襲して改めて設定したが、日本測地系座標から世界測地系座標への切り替えに伴い位置に若干の誤差が生じている。

発掘期間は2022年(令和4年)1月5日~3月7日である。 調査は1月5日から重機による表土等の掘削から開始し、1月14日に表土掘削を終了した。17日より精査・遺構確認作業を南地区から開始し、21日から調査区のグリッド及びローム層掘削箇所等の設定作業を行った。2月1日より南地区より重機によるローム層掘削と精査・遺物包含層の調査等を開始し、2月18日に南地区の調査を終了した。2月21日からは北地区のローム層等の調査を開始し、3月7日に全ての作業を終了した。

(2) 基本土層(第6図、関東カラー図版2-1、写真図版4-1)

基本土層(第5図)の名称等については第1次調査及び第2次調査時の基本土層(佐藤 1999)を踏まえ、隣接地の打木原遺跡での基本土層(佐藤 2002)に準拠した。第1層~第3層、表土層~弥生時代~古墳時代前期頃の堆積層は昭和時代の数次にわたる改変により欠落していた。

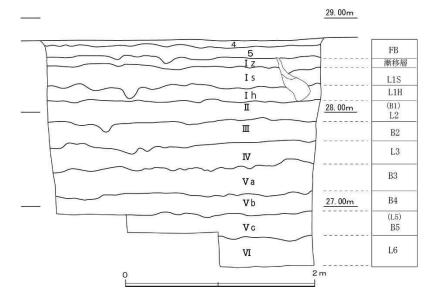
第4層 黒色土層

第5層 黒褐色土層。

ローム層第I層 暗黄褐色土層。ローム層上部の軟質層。

IZ層 ローム漸移層。

- IS層 いわゆるソフトローム。相模野台地考古学土層(台地以下は以後省略)L1Sに相当。
- Ih層 いわゆるハードローム。相模野L1Hに相当。
- ローム層第Ⅱ層 黄褐色土層。やや軟質なローム。相模野L2に相当しB2上部を含む。
- ローム層第Ⅲ層 上部黒色帯。軟質で暗色を呈するローム。B2に相当しL3の上部を含む。
- ローム層第IV層 黄褐色土層。上下層に比べやや軟質で中間部ほど明るい。AT (姶良丹沢パミス)に比定される火山ガラスを含む。相模野L3に相当する。
- ローム層第V層 下部黒色帯。色調が明るい中間層を挟んでVa~Vcの3層に細分される。
 - a層 上部黒色帯より硬質。相模野B3上部に相当。
 - b層 上下層より色調が明るく、上層よりしまりが増す。相模のB4に相当
 - c層 最もしまりが強い。相模野B3下部に相当。
- ローム層第VI層 明褐色土層。相模野L5・B5・L6に相当。



第5図 基本土層(18N5」グリッド深堀西面土層断面図

(3) 発見された遺構と遺物

旧石器時代では南地区の 19N1 h グリッドの深堀調査区で基本土層IV層下位から第V層上位にかけて硬質 細粒凝灰岩製の剥片 2 点と残核 1 点が、同V層中から硬質細粒凝灰岩製の剥片 1 点が出土した(第6図 $1\sim5$ 、写真図版 $5-1\sim6-2$ の $1\sim5$)。石質は第6図 1 と $3\sim5$ が硬質細粒凝灰岩、6が安山岩である。同グリッドの周囲にさらに石器が出土する可能性もあったが、この付近の工事による掘削深度が基本土層III層中まであったか、調査区の拡張は部分を除き断念した。

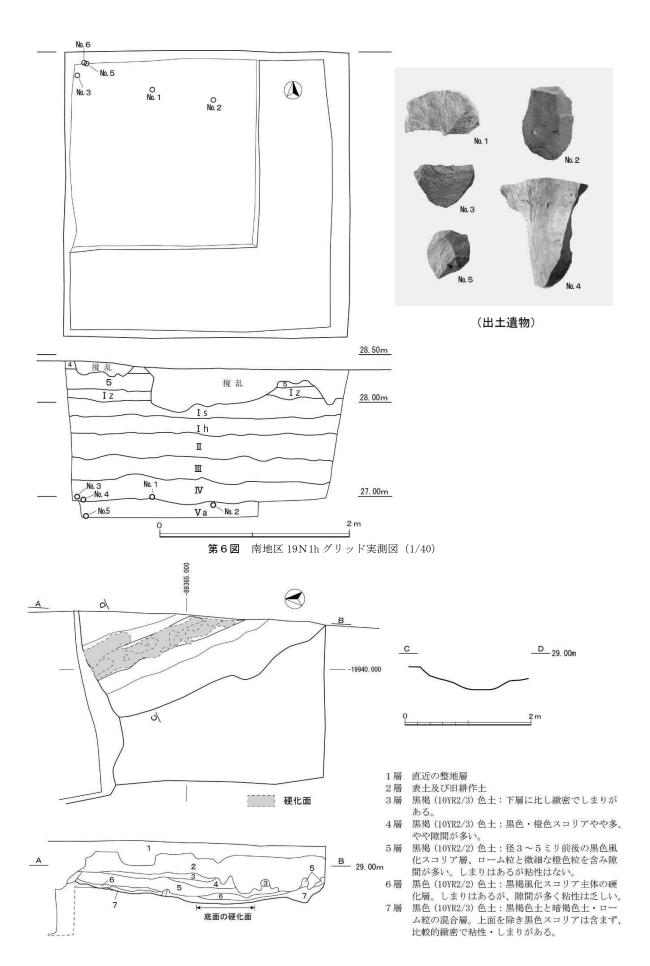
このほか、北地区のナイフ形石器ブロック調査地区の外縁部から黒曜石製の剥片 1 点が出土している(写真図版 4-2、写真図版 6-2 の 6)。古墳時代後期以降ではこれまでの調査で一部が発掘されている複数枚の硬化面がある道路状遺構 1 号道路状遺構(SD01)の残存部の一部を調査したが、従前どおり時期を示す出土遺物は出土しなかった。

以上の他に古墳時代~奈良・平安時代の土師器・須恵器片や中世以降近代までの陶磁器片と管状土錐などが若 干出土したが、それらに伴う遺構は確認できなかった。

(文献)

稲村 繁・佐藤明生・中三川 昇 1990 『長井台地遺跡群』横須賀市文化財調査報告書第 20 集 横須賀市教育委 員会

麻生順司・小山裕之・他 2005 『打木原遺跡・長井高原遺跡 発掘調査報告書』 玉川文化財研究所 佐藤明生 2002 『打木原遺跡』横須賀市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 10 集 横須賀市教育委員会 佐藤明生 1999 『長浜ノ上遺跡』横須賀市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 7 集 横須賀市教育委員会



第7図 1号道路状遺構残存部実測図 (1/60)



1. 調査前の調査区全景



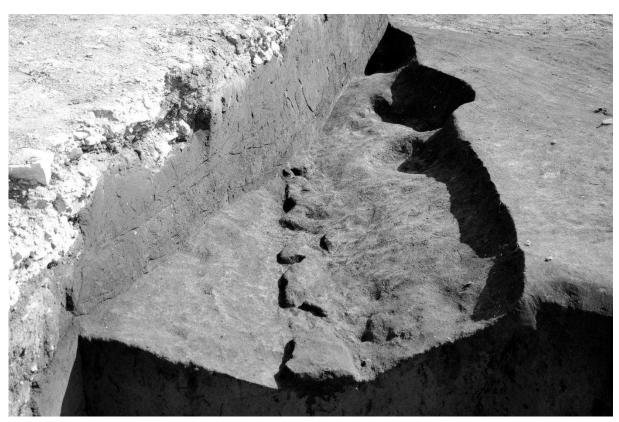
2. 調査区全景(池部分が打木原遺跡の旧石器時代陥し穴群出土地区、上方の相模湾に伊豆大島と伊豆半島)



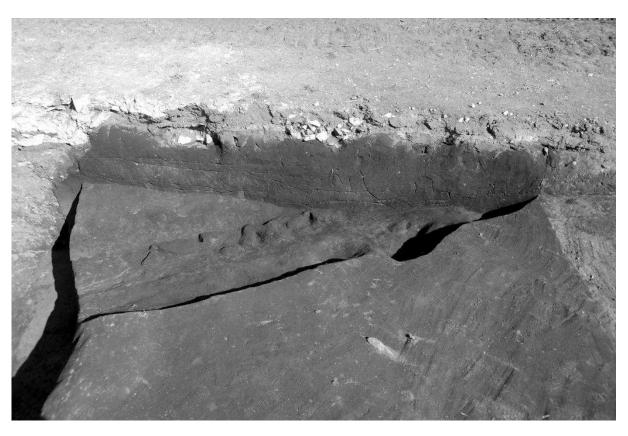
1. 北地区全景(道路状遺構等調査前)



2. 南地区全景



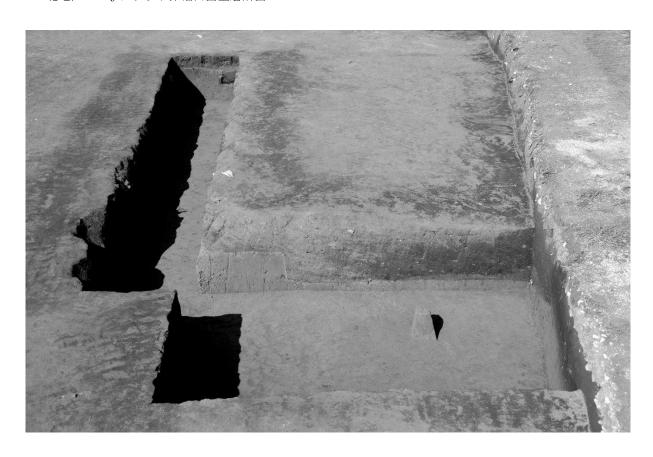
1. 1号道路状遺構残存部全景(底面の高まりは硬化面)



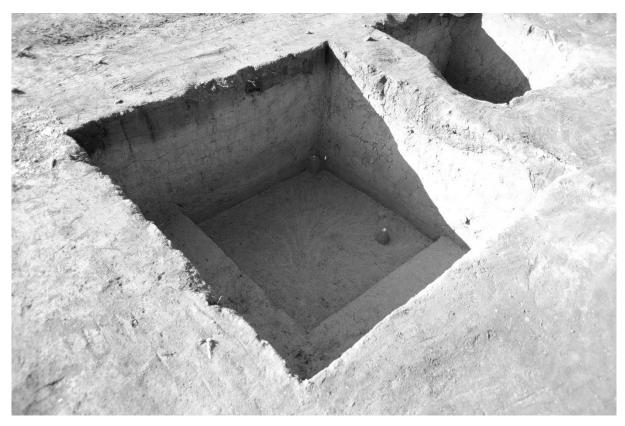
2. 1号道路状遺構全景と土層断面



1. 北地区 18N5J グリッド深堀西面土層断面



2. 北地区ナイフ形石器ブロック調査区拡張区石器出土状況



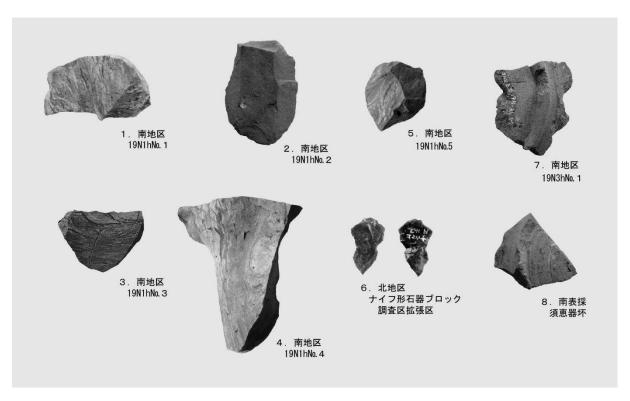
1. 南地区 19N1h グリッド深堀全景



2. 南地区 19N1h グリッド土層断面



1. 南地区 19N1h グリッド、石器出土状況



2. 主な出土遺物

(附編)

横須賀市長浜ノ上遺跡のテフラ柱状図 (2022.3.7調査)

神奈川災害考古学研究所 上本進二

1. 遺跡の地形と地質

横須賀市長浜ノ上遺跡は、標高約30mの平坦な長井台地にある。長井台地は三浦層群初声凝灰岩層(約300万年前)の上位に武蔵野ローム層と立川ローム層が堆積している(神奈川生命の星地球博物館・横須賀市自然人文博物館1999)。遺跡の調査地点のトレンチでは、立川ローム層のほぼ全層が観察できた。

調査地点は、富士山の火口から東へ約82km、富士山の真東から約13度南に位置している。富士系テフラは富士山頂の真東よりもやや北側に等層厚線の尾根がある。

三浦半島の遺跡では相模野台地のテフラ層よりも層厚が薄いが、富士系テフラ分層と相模野考古学土層を対比する方法が可能であった。相模野考古学土層とは、神奈川県大和市および周辺の相模野台地の諸遺跡における考古学土層分層と Y-No.の対比案(上本・上杉 1996・2010)である。その結果、テフラ柱状図のように、本遺跡の土層分層は富士系テフラ分層よって相模野考古学土層と対比することができた。

2. テフラ分層の方法

富士系テフラ層の研究は、富士東麓の模式地のテフラ層序をもとにして、各層中の富士系スコリアや岩片の諸特徴、挟在する箱根系その他の火山起源の軽石等を根拠にテフラ層序学的再区分を試み、Y-1(御岳 Pm-1 層準)から立川ローム最上部のY-141までの141枚のテフラ層に $Y-N_0$ を付けた。 $Y-N_0$ のYは新期ローム層(Younger Loam)のYである。これらのデータは上杉(1990・2003)に集約されている。

本遺跡の調査では、立川ローム層に掘られた最も深いトレンチにおいて、テフラ層序学的区分(上本・上杉 1996・2010;上杉 2003)に基づいて Y-Noによる分層をおこなった。

分層の手順は、まず立川ローム層の富士系テフラ層に含まれる代表的な火山ガラス層位を肉眼で探し、ガラス層が含まれる富士系テフラの層位(YNo.)を確定した。確認できた火山ガラスは、上位から、浅間 $23\sim25$? 軽石(富士系テフラ Y-139)、用田ガラス;YG(富士系テフラ Y-132;上本 2002a)、丹沢軽石 II;TNP-II(富士系テフラ Y-128;上杉 1990)、約 2.9 万年前に鹿児島湾から飛来した姶良丹沢軽石 AT(富士系テフラ Y-117 層位;町田・新井 2003)であった。

次に、富士系テフラで特徴的なテフラ(鍵層)数枚を確認した。上位から、Y-138 とその下位の Y-137、AT 直上の S1S (相模野第 I スコリア)、Y-108、Y-103 の S2S (相模野第 2 スコリア)を確定した。さらに、箱根火山から噴出した白色軽石の CCP-No. (箱根中央火口丘軽石)も同一層位の富士系テフラとともに記載した。

これらの鍵層を確定したあと、各鍵層間の富士系テフラを、上杉(1990・2003)に記載された特徴に基づいて テフラNo.を割り振ることによって、トレンチ土層の大半は分層可能となった。ただ、層境界は不明な場合が多かったので、分層線が引けなかった層もある。

トレンチ最下部は立川ローム層の最下層にあたる Y-103 で、さらに武蔵野ローム層に続くと思われる。

以上の調査・分析結果を総合してテフラ柱状図を作成し、テフラ層序学的区分(YNo.)と相模野考古学土層との対比を示した。

3. 主な鍵層となるテフラの特徴

L1S 層中の Y-138~139 層位の火山ガラスは、浅間山から噴出したガラス質軽石(浅間 23~25)の浅間板鼻黄色軽石の可能性がある。この火山ガラスは武蔵野地域の UG(立川ローム層上部ガラス)に対比される可能性がある。ソフトローム層中の鍵層である。

L1H 層中の Y-137 は巨大噴火のテフラで、最初に飛来した大量の大粒スコリアは赤錆色に風化する特徴がある。立川ローム層上部で最もスコリアに富むテフラ層である。

L3 層の AT (Y-117) は、大量の火山ガラスが肉眼で簡単に検出できる。AT の直上にあって大粒硬質褐色スコリアが特徴の相模野第 I スコリアは、神奈川県の中部ではスコリア純層になっているが、三浦半島では散らばっ

ている程度である。ATとセットでL3層の特徴になっている。

Y-108はL5層中の巨大噴火のテフラで、凝灰岩片(30mm大)と箱根火山の大粒白色軽石(CCP-11)を伴う。凝灰岩片は本体物質(富士山の基盤岩)の湯ヶ島層群に由来するか、または人為、津波、旋風(小石を巻き上げるような風)などが考えられる。三浦半島西岸の遺跡では、長浜ノ上遺跡(上本1999)、打木原遺跡(上本2002b)、三浦市がんだ畑遺跡でもY-108層準を中心に大量の凝灰岩礫(径30mm以下)が堆積しており、三浦市上の原遺跡ではY-115層準に凝灰岩礫が検出されている(三浦市三戸土地改良区三戸地区埋蔵文化財発掘調査団2006)

L6 層の Y-103 は相模野第 I スコリアに似た褐色スコリアが密集し、相模野第 2 スコリア (S2S) と呼ばれている。大和市ではスコリアの純層が三枚 (S2SU-1・ S2SU-2・ S2SL) 確認できる。

4. 遺跡土層分層と富士系テフラ番号・相模野考古学土層の対比

テフラ柱状図に示したように、本遺跡の土層分層は、富士系テフラ層の分層によって相模野考古学土層と対比することができた。相模野考古学土層は、神奈川県大和市の相模野台地上の諸遺跡における考古学土層分層と Y No.の対比案(上本・上杉 1996・2010)を基準にしたものである。相模野台地に比べて三浦半島ではテフラ層が薄いため、これまでは相模野考古学土層との対比が難しく不安定であった。

本遺跡の場合は、以下のようにそれぞれ対比できた。 $4\cdot 5$ 層 \to BB(富士黒土層)、 I z 層 \to 漸移層、 I s 層 \to L1S、 I h 層 \to L1H、 II 層 \to B1 · L2、 III 層 \to B2、 IV 層 \to L3、 V a 層 \to B3 · L4 · B4、 V b 層 \to L5、 V c 層 \to B5、 V II \to L6。

引用文献

- 上杉 陽 (1990) 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図-その1: S-25~Y-114. 関東の四紀, 16, 3-28
- 上杉 陽(2003) 『地学見学案内書富士山』. 117p, 日本地質学会関東支部発行
- 上本進二・上杉 陽 (1996) 「神奈川県のテフラ層と遺跡層序-考古学のためのY-No.・S-No.-分層マニュアル」. 関東の四紀20, p3-24
- 上本進二 (1999) 「長浜ノ上遺跡のテフラ分析およびテフラ層の特徴について」. 『長居台地遺跡群長浜ノ上遺跡-横須賀市埋蔵文化財調査報告書第7集-』, p46-48. 横須賀市教育委員会, p54.
- 上本進二 (2002a) 「藤沢市用田バイパス関連遺跡群の地形・地質環境」. 『用田鳥居前遺跡』, p581-586. かなが わ考古学財団調査報告書128, 財団法人かながわ考古学財団, 636p
- 上本進二(2002b)「打木原遺跡のテフラ層序」. 『打木原遺跡-横須賀市埋蔵文化財調査報告書第10集-』, p125-126. 横須賀市緑政部・横須賀市教育委員会, 160p
- 上本進二・上杉 陽 (2010) 「神奈川県のテフラ層と遺跡層序-考古学のためのY-No.・S-No.-分層マニュアルⅡ」 . 関東の四紀30, p3-26
- 神奈川生命の星地球博物館・横須賀市自然人文博物館(1999)『海から生まれた神奈川』.96p
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺. 東大出版会, 360p
- 三浦市三戸土地改良区三戸地区埋蔵文化財発掘調査団 (2006) 三戸地区遺跡群発掘調査報告書, 340p

横須賀市長浜ノ上遺跡のテフラ柱状図 (2022.3.7調査)

			テフラの特徴	相模野考古学土層
cm 0	r			
10_	S-0-1 ~ 6	//////////////////////////////////////	黒色腐植質火山灰土壌 (富士黒土層)	FB
20_		/////////	赤色スコリア	
30_	Y-141	 	黒褐色腐植質火山灰土壌 明褐色スコリア 赤色スコリア 褐色ローム	
40_	Y-140 ~ 139	// _ //// ∨	赤褐色スコリア 赤褐色スコリア 火山ガラス (浅間 23 ~ 25 ?)	L1S
50_	Y-138	///// \ ///////////////////////////////	褐色口-ム	DO.
60_		///////// ▲ / ▲ //// ▲ /	黒色・茶色スコリア 赤橙色スニリア	B0
70_	Y-137		錆色スコリア 黒色・赤色スコリア 5mm (赤ザブトン)	L1H
80_	Y-132 YG Y-130 ~ 131	141111111	火山ガラス(用田ガラス) 黒色・茶色スコリア	B1
90_	Y-129 ~ 128 TNP- II	///▲////// ///∨∨/	橙・黒色スコリア 火山ガラス(丹沢パミスⅡ)	L2
100	Y-125 ~ 126 Y-124	//// ^ // ^	ヒョウ柄ローム 黒褐色腐植質火山灰土壌 大粒茶色スコリア(ソフトキャラメル)	,
110	CCP-15	V //// ∨ ▲ /////////	黄色・白色軽石(箱根中央火口丘軽石) 赤橙色スコリア	B2
120	Y-123 Y-121 S1S	**	黒色スコリア 黒色スコリア 赤色・褐色・ベージュ色スコリア集中(相模野第1スコリア)	
130	Y-117 ~ 118 AT	V /// V V //// V	火山が 7人多量に散乱 純層なし (姶良丹沢軽石)	L3
140	Y-116 Y-115	✓ A /////	赤色·褐色石切 赤色·褐色石切 凝灰質岩片 黒褐色腐植質火山灰土壌	
150	Y-113 ~ 114 CCP-13		赤松色スコリア 白色軽石	B3 L4
	Y-112	A A ////	橙・褐・スコリア黒褐色腐植質火山灰土壌	
16 <u>0</u>	Y-109 ~ 111	/ A A /////	^゙ージュ色スコリア 赤橙色スコリア	B4
17 <u>0</u>	Y-108	// * * *	大粒橙赤色スコリア 黒色スニリア 赤色スニリア密集	
18 <u>0</u>	CCP-11	/V //// A	白色軽石(箱根中央火口丘軽石) 凝灰岩片(30mm) 本体物質または任石	L5
19 <u>0</u>	Y-106	//// A / A	赤橙色スコリア 白色軽石 赤橙色スコリア	
20 <u>0</u>	ton experience.	▲ ▲	ベージュ色スコリア 黒褐色腐植質火山灰土壌	B5
21 <u>0</u>	Y-105	//▲////// ////////////////////////////	赤・黒色スコリア	
22 <u>0</u>		▲ ///// ▲	黒色スコリア	2
23 <u>0</u>	Y-103 ~ 104 \$2\$	A ''''' A	無 □ ヘ コ ッ/ 橙 ・ 褐 ・ ス コ リア 橙 ・ 黒 色 ス コ リア 多 量 (相 模 野 第 2 ス コ リア)	L6
24 <u>0</u>	525		位 杰 60~171 夕里(竹竹头线 泵 2 ^ 4717)	
		: :		

	黒色~橙色スコリア	
\vee	白色~黄色軽石 火山ガラス	
00	赤色溶岩片	
	茶色~黒色岩石	
	青~緑色凝灰岩片	
////////	黒色風化土	

抄 録

ふりがな	まいぞうぶんかさ	いけっくつち	ょうさがいほ	うしゅうにじゅうけち				
書 名		まいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほうしゅうにじゅうはち 埋蔵文化財発掘調査概報集 XXVIII						
副書名		2 - 10 11 1 2 2 1	2411-214					
巻 次								
シリーズ名	横須賀市文	横須賀市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 60 集	第 60 集						
編著者名	中三川 昇	中三川 昇・礒口健太郎・上本信二						
編集機関	横須賀市教	横須賀市教育委員会						
所 在 地	₹238-85	〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町 11 番地 1 12:046 (822) 8484						
発行年月日	西暦 2023	西暦 2023 年 3 月 31 日						
しょしゅういせきめい		コード		北緯 °′″		面積		
		市町村	遺跡番	号 東経。/ "	調査期間	(m²)	調査原因	
ゃとのた 谷戸ノ田遺跡	のび 野比 5	14201	149	35° 12′ 30″ 139° 42′ 21″	202000803	4	確認調査 (病院建設)	
やはたじんじゃ 八幡神社遺跡	くりはま 久里浜 2	14201	248	35° 13′ 22″ 139° 46′ 58″	2020107	4	確認調査 (個人住宅)	
たど 田戸遺跡	たど田戸	14201	36	35° 16′ 01″ 139° 40′ 44″	2020 ?~?	?	確認調査 (宅地造成)	
せいうんじ 清雲寺遺跡	_{おおやべ} 大矢部 5	14201	348	35° 14′ 13″ 40′ 16″	20210406	16	確認調查 (宅地造成)	
やくおうじ 薬王寺遺跡	_{おおやべ} 大矢部 1	14201	149	35° 14′ 17″ 139° 40′ 17″	202210805	8	確認調查 (町内会館)	
なはまのうえ 長浜ノ上遺跡	ながい 長井4	14201	471	35° 11′ 28″ 139° 37′ 02″	20220112 ~ 0307	2, 394.	本格調查 (公園建設)	
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
谷戸ノ田	散布地	弥生・古墳 なし		L	近代の陶磁器・煉瓦		確認調査	
八幡神社	古墳・集落跡	古墳~中世 なし		·L	土師器		確認調查	
田戸遺跡	集落跡	縄文・古墳 なし		·L	なし		確認調査	
清雲寺	寺院跡	中世〜近世な		L	なし		准認調査	
薬王寺	寺院跡	产 中世~近世		世の地業面	瓦		准認調査	
長浜ノ上	散布地	交 布地 奈良~近世		L	石器・土師器・須恵 器・陶磁器		AT 層の下層か から石器出土	
要約	令和 3 (2021)	年度まで	に横須賀	市教育委員会が実施	施した埋蔵文化財	確認調査	の概要	